

『日本の街を美しくする－法制度・技術・職能を問いなおす－』
編著者：土田旭＋都市景観研究会
出版社：学芸出版社

《目次》

1章 誰が景観をつくるのか

- 1・1 なぜ、わが国の都市は美しくならないのか
 - 1 景観をつくるのは景観法ではない
 - 2 これまでの挫折と失敗を振り返る
 - 3 街をつくる基本にある法・制度の構造疲労
 - 4 街をつくる基本となる思想・概念の再構築
 - 5 社会から信頼される専門家へ
- 1・2 なくしたい問題風景の数々
 - 乱れた街並み
 - アメニティを損なう車優先の思想
 - ちぐはぐな緑とオープンスペース
 - 親しまれてきた建物や街並みの消滅
 - 未熟な大規模技術
 - 荒れる街の外側

2章 街を美しくする都市デザインの条件

- 2・1 街並み景観をダメにしている公共施設のデザイン
 - 1 日本の都市景観をダメにしている要素
 - 【提案】まず最初に取り組むべきこと
- 2・2 問題が多い公と私の境界
 - 1 建物のつくる景観と敷地のつくる景観
 - 2 敷地に関わる景観上の課題
 - 【提案】街並み誘導の原点に立ち返る
- 2・3 街のグレードを左右する屋外広告物、色彩、照明
 - 1 屋外広告物だらけの街
 - 2 色彩感覚を疑う工業製品の氾濫
 - 3 明るすぎる街、暗すぎる街
 - 4 社会・法制度・技術上の原因
 - 【提案】街のグレードを上げるために
- 提案 都市美のための基本作法
 - 1 シビルデザインにおける基本作法の浸透
 - 2 対象物の数、要素を減らし、頑張りすぎない
 - 3 都市景観全体の選択方法、体制づくり

3章 街の構造をつくるランドスケープデザインの条件

- 3・1 分断される風景：細切れの自然地
 - 1 細切れの自然的景観
 - 2 自然的景観をダメにした要因
 - 【提案】山林・農地における自然的景観の基盤づくり
- 3・2 美しさが問われなかった公共空間
 - 1 都市軸の緑とオープンスペース
 - 2 美しさへの意欲と能力の不足
 - 【提案】公共施設の緑とオープンスペースによる修景
- 3・3 ぎこちない街なかの緑
 - 1 景観までは考えられていない建築の緑
 - 2 緑のことまでは、よく考えられていない都市計画
 - 【提案】多様な取り組みでレベルアップが可能な街なかの緑とオープンスペース
- 3・4 劣化するプライベートオープンスペース
 - 1 分割される住宅地
 - 2 重い税負担・市民の無関心による劣化
 - 【提案】資産価値維持の合意と協働が支える庭や宅地の緑
- 提案 地域固有の美しい風景を保全創出する仕組みと仕掛け
 - 1 美しい景観づくりへの窓口としての緑化

- 2 市民の合意と協働による水と緑のネットワーク
- 3 法制度と税制・財源
- 4 専門家・専門技術・適切な材料の活用

4章 街並みを形成する建築デザインの条件

- 4・1 街並み・景観形成の視点に欠ける「形態規制」
 - 1 緩和が進む形態規制の流れ
 - 2 街並みを壊す形態規制
 - 【提案】エリア特性に即したルールづくりを
 - 4・2 建物複雑形態の主因「日影規制」
 - 1 日照権保護から生まれた日影規制
 - 2 日影規制のために景観や環境が悪化する
 - 【提案】日影だけでなく街をつくるルールの共有を
 - 4・3 既成市街地の「ガワとアン」
 - 1 問題群としての「ガワとアン」
 - 2 実務から見た課題整理
 - 【提案】「ガワとアン」をゆっくりと改善する手立て
 - 4・4 違和感のある景観や空地を生む「総合設計制度」
 - 1 総合設計制度の問題点
 - 【提案】 景観形成に寄与する制度であるために
 - 4・5 街に活かさない「歴史的建築物」
 - 1 街の個性を感じさせない現代オフィス街
 - 2 古い建物が街の中にあることの意義
 - 3 なぜ建て替えか
 - 4 継承に立ちはだかる建築基準法と消防法
 - 5 景観法と文化財保護法のギクシャクした関係
 - 【提案】 歴史的建築物を地域に活かす
- 提案 建築デザインを活かせる仕組みづくり
- 1 適法な建築が生み出す貧しい都市景観
 - 2 貧しい景観に対し設計者がすべきこと
 - 3 分かる制度、使える制度へ

5章 街をつくる都市開発の条件

- 5・1 景観がバラバラになりがちな大規模拠点開発
 - 1 大規模拠点開発の類型と傾向
 - 2 景観上の課題
 - 5・2 都市に美をつくり出せない市街地再開発事業
 - 1 市街地再開発事業の背景
 - 2 事業制度上の課題
- 提案 事業制度に美を組み込む
- 提案 □ーカルマスタープランによる景観向上
- 1 大規模開発のかかえる課題と可能性
 - 2 生きたマスタープラン
 - 3 景観をつくるための官民連携

6章 美しい国土をつくる地域デザインの条件

- 6・1 自然や田園と調和がとれない人工的要素
 - 1 地方固有の山並み景観を損なう大規模建築
 - 2 眺望を妨害する電力と通信のインフラ施設
 - 3 眺望景観を台無しにするカントリーエレベータ
 - 【提案】縦割り行政を超えた景観施策の重要性
- 6・2 景観への配慮を欠いた観光都市
 - 1 温泉地での景観の魅力喪失
 - 2 国際級の観光地での貧弱な景観施策
 - 3 地方の伝統的・文化的景観はなぜまちづくりに生かされないか
 - 【提案】住み心地良さとともにし心のある固有の風景づくりを
- 6・3 都市計画が助長する地方都市の崩壊
 - 1 人びとがいなくなったにぎわいの場
 - 2 地方中心市街地の崩壊の現状と要因
 - 3 崩壊を助長する都市計画

- 【提案】にぎわいの場の再生に必要なこと
- 6・4 放任がもたらしたロードサイドの醜景
 - 1 ロードサイド商業がはびこる理由
 - 2 先進的な土地利用計画に挑んだ久山町の苦悩
- 【提案】沿道景観をどう改善するか
- 6・5 田園的景観とはほど遠い計画的開発
 - 1 田園都市にならなかつた戦後の住宅地開発
 - 2 消費生活を支える流通業務団地の醜景
 - 3 経済を支えた景観なき工業団地開発
- 【提案】豊かな住宅地とライフスタイルの創出
- 提案 優れたデザインの投入で地域の活性化を
 - 1 景観形成計画作成の制度化
 - 2 開発許可制度の見直し
 - 3 地域の景観デザインに市民権を

7章 風景を育むまちづくりの条件

- 7・1 記憶を継承できないまちづくりの仕組み
 - 1 失われる街の記憶
 - 2 生活風景を創造する戦い
- 【提案】生活風景の継承
- 7・2 変貌を迫られる近郊住宅地
 - 1 屋敷林と農地が消えミニ開発が進行
 - 2 大規模な土地利用転換や団地の建替えによる景観紛争の発生
- 【提案】近郊住宅地固有の景観と緑豊かな環境を維持していくために
- 7・3 変わりゆく街なかの住宅街
 - 1 成熟への変化か、流されゆくのか
 - 2 街の景観資産の形成・継承ができない
- 【提案】より良き生活空間を求めて
- 7・4 時代の摩擦にさらされる下町の美しさ
 - 1 密集市街地で感じる危さと不安
 - 2 法制度の形態規制でつくられる街の形
- 【提案】下町の住みごこち良さと魅力を生かす
- 提案 風景を育むまちづくりへ
 - 1 公共空間を生活空間として美しく再構築する
 - 2 土地利用制度・建築規制を地域ごとにきめ細かく見直し、美しい街並みを誘導する
 - 3 地域資産を生かして街を美しくする
 - 4 地域文化に根ざした個性的で美しい街並みをつくる

8章 景観をつくる都市計画の条件

- 8・1 景観形成に無縁だった都市計画
 - 1 成長主義の都市計画と都市景観
 - 2 景観形成を阻む都市計画の体制
- 8・2 都市計画が壊した都市景観事例とその課題
 - 1 道路沿道は街並み景観をつくれぬ
 - 2 地域地区制度が無秩序な市街地をつくる
 - 3 景観形成とは無縁な機能開発優先主義
 - 4 朝令暮改の制度が変な街並みをつくる
- 提案 都市景観をつくる都市計画制度
 - 1 新しい都市計画制度の基本方向
 - 2 空間計画・管理ツールとしての都市計画
 - 3 都市計画における住民、専門家、行政の役割
 - 4 都市景観をつくる都市計画制度と財源の提案

提案 美しい街をつくるために

- 提案1 都市計画・建築規制のあるべき姿
- 提案2 都市マスタープランへ景観計画を位置づけ、運用する
- 提案3 都市開発プロジェクトへ戦略的マスタープランを導入する
- 提案4 「ローカルルール優先」の原則に基づく制度の再構築
- 提案5 都市開発に景観評価システムを取り入れる

- 提案6 税制をまちづくりに連動させる
- 提案7 専門家の職能を確立する
- 提案8 今すぐ始めるべき4つの行動